



勉強会 報告書

全町避難から避難指示解除後、 現在に至るまでの浪江町の状況と 町民の生活再建に向けた 浪江町の取り組み

後 援：浪江町

開催日：2018年6月23日（土）

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

ホームページ <http://kfop.jimdo.com/>

代表メール info.kfop@gmail.com

2018年7月25日発行 不許複製・禁無断転載

1. はじめに

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）では、福島現状を伝える事業の一環として、総会開催に合わせて勉強会を企画、開催しました。今回、2018年度の当会の主な現地活動先である浪江町の状況への理解を深めることを目的として、視察研修でもお世話になった宮口副町長に講師をお願いしました。

意見交換や質疑応答を重視した構成とし、主に多くの会員に積極的に参加してもらうことを目指しましたが、双葉郡や浪江町にご縁のある方にもご案内し、懇親会も含めてご参加いただきました。特に、現地の方のコメントが参考になったという感想もいただきました。

2. 開催概要

(1) 日時・次第

日時：	2018年6月23日（土）14:30～16:30
タイトル：	勉強会「全町避難から避難指示解除後、現在に至るまでの浪江町の状況と町民の生活再建に向けた浪江町の取り組み」
会場：	八洲学園大学 講義室 7A（神奈川県横浜市西区桜木町 7-42）
講師：	宮口勝美さん（浪江町副町長）
主催：	かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）
後援：	浪江町
	〔勉強会次第〕
14:30～15:30	宮口副町長による講演（資料：なみえ復興レポート平成30年6月版）
15:30～16:30	質疑応答
17:00～19:00	場所を変えての懇親会（講師、勉強会参加者）

(2) 参加者数

勉強会 27人（講師を含む、うちkfop会員23人、一般4人）

懇親会 19人（講師を含む、うちkfop会員15人、一般4人）

(3) 講師紹介

宮口勝美さん（浪江町副町長）には、kfopが2016年10月に浪江町の視察研修を実施した折に、バスに同乗して浪江町内、二本松市内にある浪江町の復興住宅等をご案内いただきました。

浪江町出身で、1978年に浪江町役場に入庁。議会事務局長、復興推進課長などを歴任し、2015年3月に退職。2015年10月、浪江町副町長に就任されました。2018年1月に設立された「一般社団法人まちづくりなみえ」代表理事も務めておられます。

3. 詳細

(1) 講演

このような経験を次の時代に伝えていくために、このような機会があれば積極的にお話しさせていただいている。講演の資料は、2011年の3月からの経過をまとめたもの。

浪江町は双葉郡で一番人口が多い町。相馬野馬追にも参加し、地域のお祭りも多い。鮭がのぼる川もあり、焼き物もあり、日本酒もあった。浪江は水がきれいなところで、地下水をくみ上げて上水道に使用していた。

浪江町は、地震・津波の被害（6平方キロメートルが浸水、全壊家屋651戸、死者182名のうち31名は行方不明）と、原子力発電所事故による被害の2つの被害を受けた。震災の翌日には避難指示が出たため、沿岸部の津波被害を実際に見た住民は非常に少なく、どのような様子か想像できなかった。

原子力発電所事故により、町の全域が避難対象となった。避難先を転々とし、役場機能も1年半で4回移動した。長引く避難生活による震災関連死は418名に上る。震災後、転々とする中で、町民から連絡は入るが整理ができない状況が続いた。数年たって、町民の避難先も落ち着いた感がある。現在は、中通りに5～6千人、浜通りにも5～6千人等。なかなか集約ができないというのも浪江町の避難状況の特徴。避難をする中で、要支援・要介護の方が大変増えている状況。町に介護施設もない中で、どうしていけばいいのかは課題である。

2017年に避難指示が解除された区域は、人口の8割に相当する。2017年3月に浪江町復興計画（第二次）を策定、2017年4月～2021年3月を本格復興期と位置づけて活動を続けている。

解体申請があった建物は順次解体中で、受付件数は3781件、2018年5月末現在1886件が完了済み。インフラは上下水道とも復旧。道路も常磐自動車道も開通。鉄道は、浪江以北が2017年4月1日に再開。浪江以南（浪江～富岡間）は2020年春に再開予定。

事業は2013年7月から2事業者が再開。2018年5月現在105事業所が町内で営業している。2016年10月には役場敷地内に仮設商用施設「まち・なみ・まるしえ」がオープンした。

農業では、2014年から水稻の実証栽培を開始し、翌年から販売を開始。漁業では、2017年2月に請戸漁港へ漁船が帰還。漁港全体の災害復旧は2020年度に完了予定。

住まいの再建について。町外に整備する復興公営住宅として福島県が2500戸を整備、入居決定が1548戸、入居開始が1545戸。町内には町が111戸を整備。旧・雇用促進住宅2棟80戸を改修し、被災者・新町民向け公的賃貸住宅として再生。1階を高齢者向けにバリアフリー仕様にしたが、孫が来たときに泊める部屋がない、という理由で人気がない。ほとんどが1軒屋に住んでいたような人なので、マッチングが難しい。

学校教育について。震災前は町内に6つの小学校と3つの中学校があり生徒数は約1700人いた。現在は避難先の全国約600の小中学校に約1200人が通っている。2018年4月に震災後新たに町内

に小・中併設校（小 8 人・中 2 人）と認定こども園（3 歳以上で 13 人）を開校・開園しました。人数は少ないものの浪江に住んでいる方が通っている。保育士が足りず、募集しても集まらない。現在以上の受入が難しい状況。

避難先が分散し、子どもの進学などの理由で避難先にそのまま住む方もいるため、つながりの維持の点でも課題が大きい。交流館の設置、復興支援員の配置、「みんなの連絡帳」の作成。タブレット事業については国が通信料も含めて面倒を見ていたが、今年いっぱい終了予定。

帰還の意向について。帰還しないと決めている方が半数、帰還したいと考えている方が 13.5%、まだ判断がつかない方が 31.6%。震災後 3 年を過ぎてから帰らないという方がぐっと増えた。それまでは判断がつかないと回答する方が一番多かった。損害賠償は当然必要だと思うし否定するものではないが、損害賠償があるから帰還しなくても生活できるという面はある。それが原子力災害の複雑さ。町としては人がいないと難しいところがあるが、帰ってこいとは言えない現状。ただ、人の力がないと再生できない。

(2) 質疑応答

Q 浪江町のまちづくり会社について教えてくださいませんか？

A 今年の 2 月にできました。昔は浪江町・双葉町・大熊町の広域でのシルバー人材センターがあって事業をしていましたが、シルバー人材センターは常時動いている会員が 100 名以上必要なため、作ろうとしてもできない状況。生きがい対策も含めて何かできないかということで、まちづくり会社を始めた。仮設商店街でのイベントもまちづくり会社で請け負っている。職員は、町からの派遣を含め 4 人。その他コミュニティ再生事業で契約職員を 5 人雇用し活動を始めている。

Q 新しくオープンしたゲストハウス（あおた荘）には若い人が集まって活動をされていますが、そのような活動については？

A もともと民宿をしていた方が高齢のため再開できないという物件と、ゲストハウスをやりたい人のマッチングができ、ようやく営業許可がおりて公式にできるようになった。

Q ボランティアに毎月参加しています。個人でボランティアに行くこともありますが、駅から歩いていくと、売店もなく駅前が寂しい。駅も町の顔なのでもう少しなんとかならないものでしょうか。権利の関係などもあるので大変とは思いますが。

A 駅前には特に壊れた家屋もあり余計に寂しい雰囲気になっているかと思う。駅を降りて左の建物に、まちづくり会社を持ってきた。1 階をカフェにしようとしている。

Q 家屋の解体の進捗については、どのくらいかかりそうでしょうか？

A 解体は環境省の管轄だが、ある程度の数がまとまらないと業者に発注しない。申請件数から考えると今年度内に終わらないのではないかな。まだ壊すための事前調査をやっているところもあ

り、さらに今年は帰還困難区域に整備する復興拠点についても解体申請が出るとなると、まだ先ではないか、と思う。解体予定の戸建てには、壊さずに貸してくれないかなと思う物件もある。

Q 県外避難者のグループで活動しているが、話を聞いていると、近くに医療機関がない、周囲の住民が帰還していない、などの問題がある。まるしえは土日に休む店舗が多く、県外から訪れる人にとっては利用しづらいという声も聞いています。南相馬の道の駅まで行けば誰かに会えるから、そこまで行くという人もいます。そこに立ち寄れば交流ができる、というコミュニティの拠点をまず町内に作るべきではないかと思います。道の駅の計画は前倒しにできないのでしょうか？というのが1つめの質問です。

もう1つは、山林はまだ線量が高い中で、昆虫や野鳥が生息し、線量の高い素材で巣を作ったりする。それらをどう考え、どう対策していくのか、をお聞きしたい。

A 交流拠点については構想も含めて早くから計画したが、用地取得に時間がかかっている。昔の公民館を開放していただいていたたりもしているが、自由に集まれる場所は少ない。町内に戻ってきた方のフォローアップにも手が届いていない状況。そこを強化しなければならないのは承知しているが、手が回っていないところもあるという課題も認識している。

山林の除染はしないというのは国の方針。町としてはいろんな方策を専門家と検討しているが、山林の除染効果が出にくいというのは結果として出てきている。表土をはぐことが効果的でない中で、樹木のための栄養のことも考えていく必要があり、研究や調査も進んでいる。野鳥の会なども調査を進めている。山についてはなかなか難しい案件であるということ間違いはない。解決に向けての動きはずっと働きかけしていく。

Q 求人になかなか応募がないというお話がありましたが、働く意思があっても遠くから通うのは難しい、町で働こうと住まいを探しても、賃貸住宅が見つからないという話を聞きました。

A 家がないという状況があるというのは確か。ただし公営住宅には管理の負担があり、いま以上の公営住宅を作る予定はない。もともとあった民間の賃貸住宅は、修繕してまで再開しようという人は少なく、それが住宅不足につながっているのではないか。空き家バンクで情報を集めているが、価格が見合っていない。プロの不動産業者の手助けが必要だと思う。逆に富岡以南はホテルラッシュになっていて、需要と合わないのではないか。

Q 避難当事者で、震災当時は富岡町に住んでいました。地域は違えど復興計画には同じようなところがあると思います。浜通りは途中で帰還困難区域があり道路の通り抜けができない。どこまで除染すればいいのかとかそういうことが大変なネックになっているのだと思います。「双葉郡はひとつ」という動きもあると思うが、集う場所がなかなかできないのではないか。同時期に避難解除になって、復興の核となる産業は取り合いになる。すみわけなどについてお聞き

したい。

- A 双葉郡内の広域連携の話がでましたが、「双葉はひとつ」という言葉ができるほど、元からばらばらということです（笑）。やはり自分のところ、となってしまう、今まで以上に難しいのかなと思っている。合併の話もないわけではないが、双葉郡内でも北と南で藩が違ったこともあり、考え方に隔たりはある。個人同士は仲がいいのだけど、自治体同士ではなかなかうまくいかないのではないかなと思う。もっと浪江が強ければよかったのだろうけど、人口が多いが貧乏というのが、合併がうまくいかなかった理由なのかなとも思う。浪江は双葉広域水道に入っていなかった。浪江はまともにいくとあと2年しか水道事業がもたない。町長は6月いっぱいまで辞職することになった。先のことは正直不安。この1年、町長の体調が悪く代理を務めることが多かったが、選挙の洗礼を受けていない者に対して国政は冷たい。同じことを言っても対応が異なる。選挙の洗礼の重みを感じた。しっかりと選挙の洗礼を受けた方に次を引き継いでもらわないといけない。

- Q 8年ぶりに標葉郷から野馬追がでますが、どういう思いですか？

- A 昨年は小高郷で出陣が再開し、残るは浪江だけとなり、なんとか再開したいと思っていた。とはいえ自分の家で馬を飼っている人は今はおらず、出陣の準備も馬装も大変だが、あの高揚感はずごい。そういうところを含めてなんとか今年成功させたいと思っている。

(3) 最後に

浪江町の状況・課題などを、実際にかかわっている方からお聞きし、大変なご苦勞の中での「ふるさとを守りたい」という思いが伝わったのではないのでしょうか。また、避難当事者の方のコメントも頂戴でき、現地活動ではじっくりお話を聞く機会がなかなかないため、良い機会になりました。後述のアンケートにもあるとおり、現状がよくわかった、課題を知ることができたとの声がありました。今後の事業企画にもつなげていきたいと思えます。ありがとうございました。

(4) 勉強会・懇親会の様子（写真）



講師の宮口副町長（右）



「なみえ復興レポート」に基づく説明



熱心にメモを取る参加者



懇親会

(5) 参加者アンケート集計結果

アンケート回収数は19（男性10／女性9）でした。自由記述欄については、明らかな誤字脱字と判断した場合を除き、記入されたとおりに転記しています。

1. 今回の講演会の情報をどこで知りましたか？

a.主催団体による告知_kfop	19
b.登壇者や協力団体による告知 1.富士ゼロックス	0
b.登壇者や協力団体による告知 2.浪江町	0
c.友人・知人からの紹介	1
d.インターネット検索	1
e.その他	0
回答なし	0

2. 今回参加した理由は？

a.福島や被災地に関心があるから	18
b.講演者に関心があるから	4
c.講演のテーマに関心があるから	9
d.日程や会場がよかったから	7
e.その他	1
回答なし	0
〔自由記述〕	
浪江町のことを詳しく知るため	
自分が浪江町からの避難者だから	

3. 今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？

a.よかった	16
b.ふつう	0
c.よくなかった	0
回答なし	3
〔自由記述〕	
事実を具体的な事例とともに聞くことができてよかった	
浪江の現状の状況がわかった	
具体的な話が聞けたから	

4. 今回の講演についてのご感想・ご意見など、自由にお書きください

復興はまだだと感じた
宮口さんの現地の話が直接聞けて考えさせられることが沢山あった。勉強会に避難者の方の感想、話、意味のある会、会運営だと思いました。
浪江の現状がわかって良かった

浪江町の現状が知れてよかったです
町の復興の現状と取り組み等よく理解できた。今後は広域的に近隣町村との連携等さらに協働的感覚で進展して行って貰いたい
お話の内容、資料（スライド）も、大変良かった勉強会でした。副町長または浪江町の仕事は被災者、避難者、地縁者、国・県・他市町村との間ですべて二律背反の大変な仕事かと思えます。困難なことばかりですが、その闘いの中で何とか勝ち取れるものと財政や周辺、関係者の複雑な関係で勝ち取れるものとかが出てきますが、闘える立場にある方の活躍を祈念しています。
町の現状がよくわかって本当によかったです
2016年の研修便から時間があまりたっていなかったの、全体的には大きな違いは少ないと思えました。個別の質問などで（事前に強制的にでも集めて）答えてもらう時間を多めに設けるといいのでは？
今回のお話を聞くことができ本当によかったです。ホームページ等で見ることができますが、実際に言葉で伺うと内容が入ってきます。ありがとうございました。浪江町の現実を知ることができました。
卵が先か鶏が先かのような状況から抜け出すことが難しい様子が改めてわかりました。帰還しないと決めている人が約半数、こども園を作っても保育士がいない。介護サービスの提供もままならない。人がいなければ経済的にも厳しく、動けない部分もある。賠償金が帰還しなくても済んでしまう理由の一つということもあるんですね。みんな良かれと思いやっていることなのに、うまくいかないジレンマがありますね。解除になったから帰れるだろう、山は除染しなくてもいいだろうという国の考えは変えてほしい。普通に住める町にしないと、という宮口副町長の言葉が残りました。普通、あたりまえのようで難しい。
失われた場所、時間、人、生活を埋めるものは、ない。新しい浪江町として住民の方との気持ちを合わせてまちづくりが進むように、再生していくようにと願います。高齢者用に作った住宅を、逆にシェアハウスとして若い人に貸してみても？介護保険料も気になります。
視察便以降の新しい情報をお聞きすることができてとても勉強になりました。帰還や自立へ向かない要因のある現実もお話を伺う中で見えてきて、浪江の町の街づくりへの課題が理解できました。町を運営するための機動力となる人口をどのように増していくのが、この町でもやはり課題となっているが、町の再生を祈らずにはいられません。副町長さんのお話し、とても解りやすく、とても勉強になりました。
副町長さんのお話を聞いて復興が進んできているところもある一方、人が戻らないのが増えている現実を知りました。人が帰ってこない町が成り立たないし運営ができない役場としても悩める場所、苦しいところを知りました。保育士の募集をかけても来てくれない、ほかの働き口もあるようで復興に向かうのにはいろいろな問題がまだまだたくさんあるのだなと思えました。
ありがとうございました
浪江町の方々の苦勞がよくわかりました。ボランティアとしてどんなことができるのか考えながらお話を聞きました。

5. 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

今回と同じような各自治体の状況を知りたい
現地の今を知る、出身者の方に伝えられる企画が良い
小高での活動が終了し、その後の状況について知りたいと思います。避難当事者をめぐるお話を総会の最後にお話ししていただきましたが、とても重要な内容、機会をとらえて今後もお話ししていただきたいと思います。

6. あなたご自身についてお答えください。(あてはまるものに○をつけてください)

性別	男性 (10)、女性 (9)
年代	20代 (0)、30代 (0)、40代 (2)、50代 (8)、60代 (5)、70代以上 (4)
職業	会社員/会社役員 (4)、公務員 (2)、自営業 (0)、パート/アルバイト (1)、学生 (0)、専業主婦/主夫 (3)、その他 (1)、働いていない (5)、回答なし (1)

以上

4. 資料

(1) 勉強会チラシ

2018年度kfop勉強会

浪江町について もっと知ろう 聞いてみよう

2018年
6月23日(土)
午後2時30分～
(受付開始：2時15分)

東京電力福島第一原発事故による全町避難を経て、2017年3月31日帰還困難区域を除く区域の避難指示が解除された浪江町。現在そしてこれからの状況と町民の生活再建に向けた町や民間の取り組みについて学ぶ勉強会を開きます。現地から講師をお招きします。浪江町について知り、さらにご縁をつないでいきましょう。

講演：浪江町 副町長 宮口勝美氏

14:30～15:30 講演／15:30～16:30 質疑応答・意見交換
17:00～19:00 懇親会（別会場、会費制）

主催：かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop） <https://kfop.jimdo.com/>
後援：浪江町

会場：
八洲学園大学 講義室
神奈川県横浜市西区桜木町7-42
（横浜駅東口から徒歩10分）

定員：40名（事前申込）

参加費：勉強会のみ 無料
懇親会は会費制です

お申し込み方法：
Webの申し込みフォームから
<https://goo.gl/rtXU47>

または電子メールで
info.kfop@gmail.com
お名前、ご連絡先、懇親会の出欠、kfopからの今後のメール配信への同意／不同意をお知らせください

(2) 参加者アンケート用紙

勉強会（2018年6月23日）に関するアンケート

本アンケートは、講師の方へのフィードバック、活動報告、今後の企画での参考のために実施します。ご協力をお願いいたします。
 なお、回答は統計として処理し、文章は個人を特定できない形に変更させていただく場合があります。
 ≪電子メールでも受け付けます。info.kfop@gmail.com まで件名：【アンケート】でお送りください≫

1. 今回の講演会の情報をどこで知りましたか？ 丸を付けてください。
 - a. 主催団体による告知
 - a-1 かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)
 - b. 登壇者や協力団体による告知
 - b-1 富士ゼロックス株式会社 端数倶楽部
 - b-2 浪江町
 - c. 友人・知人からの紹介
 - d. インターネット検索
 - e. その他 ()

2. 今回参加した理由は？ (いくつでも)
 - a. 福島や被災地に関心があるから
 - b. 講演者に関心があるから
 - c. 講演のテーマに関心があるから
 - d. 日程や会場がよかったから
 - e. その他 (具体的に:)

3. 今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？
 - a. よかった b. 普通 c. よくなかった

(どのような点が?)

4. 今回の講演についてご感想・ご意見など、自由にお書きください。

5. 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

6. あなたご自身についてお答えください。(あてはまるものに○をつけてください)

性別	男性 ・ 女性
年代	20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代以上
職業	会社員/会社役員 ・ 公務員 ・ 自営業 ・ パート/アルバイト ・ 学生 ・ 専業主婦 (主夫) ・ その他 ・ 働いていない